

社 報



仕事場の環境が事故につながる

決算第3期を完了！

当社の決算は、毎年4月の末日が決算です。

おかげ様で、フォービルになってから、3期めの決算を過ごすことができました。

これも、当社関係者全員のおかげでありますと、感謝を申し上げます。

あっと言う間の、3年でありましたが、初心を忘れることなく、あの時の緊張感を持ち続けたいと思っています。

石の上にも3年と言う言葉があるように、3年も経つと初心がだんだんと希薄になっていくようにも感じるようになりました。

初心・基本・謙虚に！
頑張りましょう！



4月10日(月)、1日に2件の事故が発生しました。

この日は、朝から雨の降る、仕事のしずらい日でしたが、同じ日に2件の事故は大変珍しいことです。

やはり、現場での事故は、天候などの環境面が大きく影響することは間違いありません。

これからも雨の日は、事故がおきやすいので、良く覚えておいて、注意するようにしてください。

また、これからは日がだんだんと長くなるにつれ、気温も上昇してきます。暑い夏は仕事もしずらく嫌なものです、それでも私達は仕事をしなければなりません。

夏も事故が多いシーズンです。

こうしたことを考えると、雨で不快であるとか、気温が高くて不快であったり、そうした環境が人間に与える不快な影響は事故につながると言えます。

しかし、不快と言えば、天候や気温だけではありません。

家庭でも仕事場でも、不快になる原因はいくらでもあります。

そういう場におかれた時に、人間はミスをし、事故につながりやすいと

思うのです。

では、不快や不愉快にならなければ良いのですが、それはそうもいきません。人間ですから、楽しいこともあれば、悲しいことも、いろんな場面で、いろんな感情がわきあがり不愉快になることも少なくありません。

最近、現場での事故は、ほとんどが行動災害と言われていています。なにげないふとした行動がもとで、ケガをすることが多いのです。

事故はいろいろな型別に分類されます。例えば、墜落・転倒・はさまれ・切れこすれ、などのようにです。

が、この中には、ケガをした人の心理面の分析はありません。

しかし、ふとした行動の結果でケガをした場合には、心理面で、不快とか不愉快とか、そういう何かおもしろくない状況が多いと考えて良いと思います。

自分の感情を、冷静に判断することによって、事故を起しやすい自分であるかどうかを判断して、自分自身を災害から守るようにしましょう。

来月(6月)は安全準備月間です。それぞれが、安全確保の心がけを考えてみることで。

今月もまた、社報の発行が遅れてしまいました。 m(-_-)m

脚立から墜落！ 階段壁解体中に墜落！

4月10日(月)11:00頃

仲石マンションの現場で階段壁型枠を上階から解体しようと力を入れたところ、簡単にめくれた為、反動で墜落したものの。

被災者:富永静夫さん 57歳 経験2年

所属:竹島工務部-白川工務店

被災状況:休業3週間見込み

4月10日(月)15:40頃

ジオ池田の現場で脚立を使用して、梁型枠を建込み中にバランスを崩して墜落し、かかとを負傷した。

被災者:近藤一治さん 65歳 経験45年

所属:近藤工務部

被災状況:不休災害

2006年 安全成績

現場災害 H18.1.1-H18.4.30

休業災害 ----- 1

不休災害 ----- 2

物損災害 ----- 0

その他 ----- 0

合計 ----- 3

交通災害 H18.1.1-H18.4.30

人身災害 ----- 0

物損災害 ----- 0

合計 ----- 0